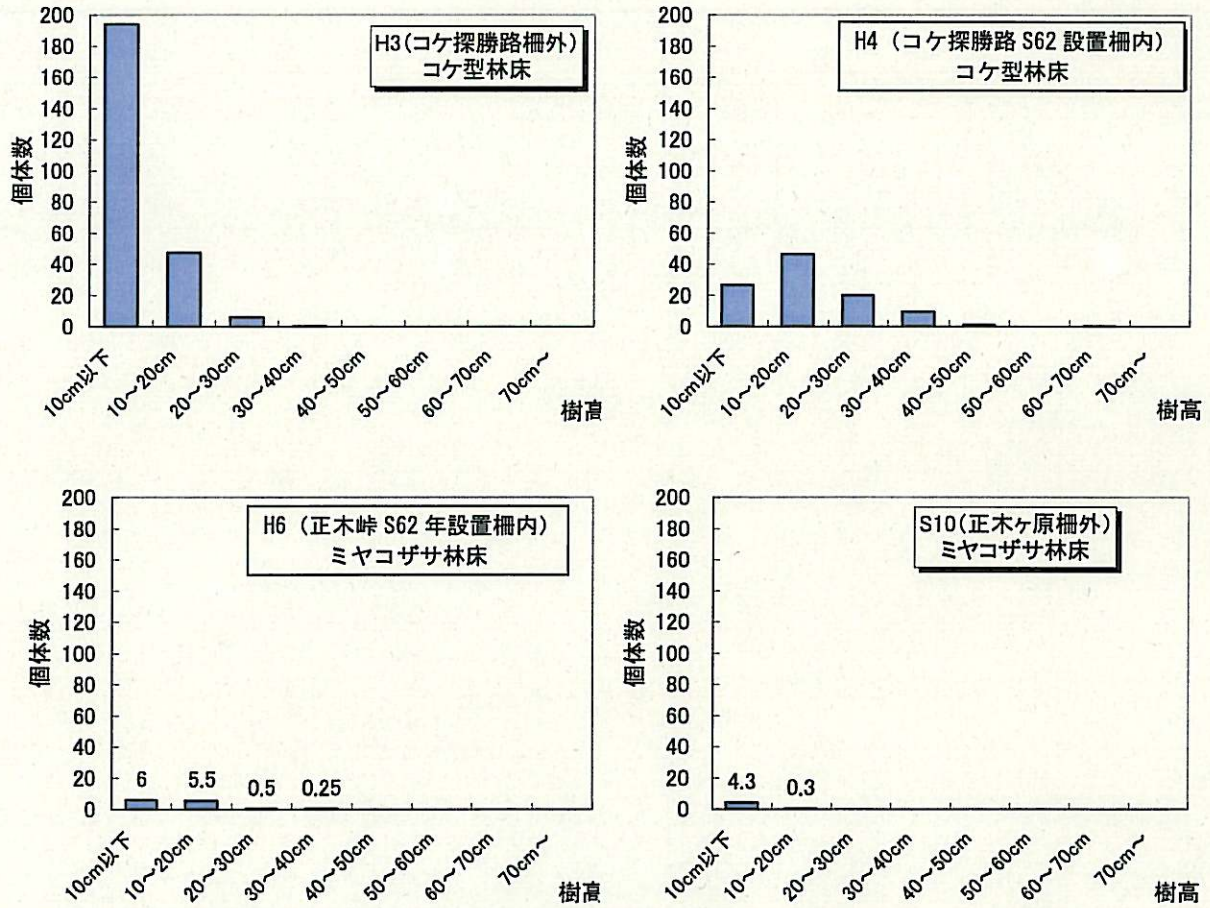


防鹿柵内外の実生（稚樹）の樹高階

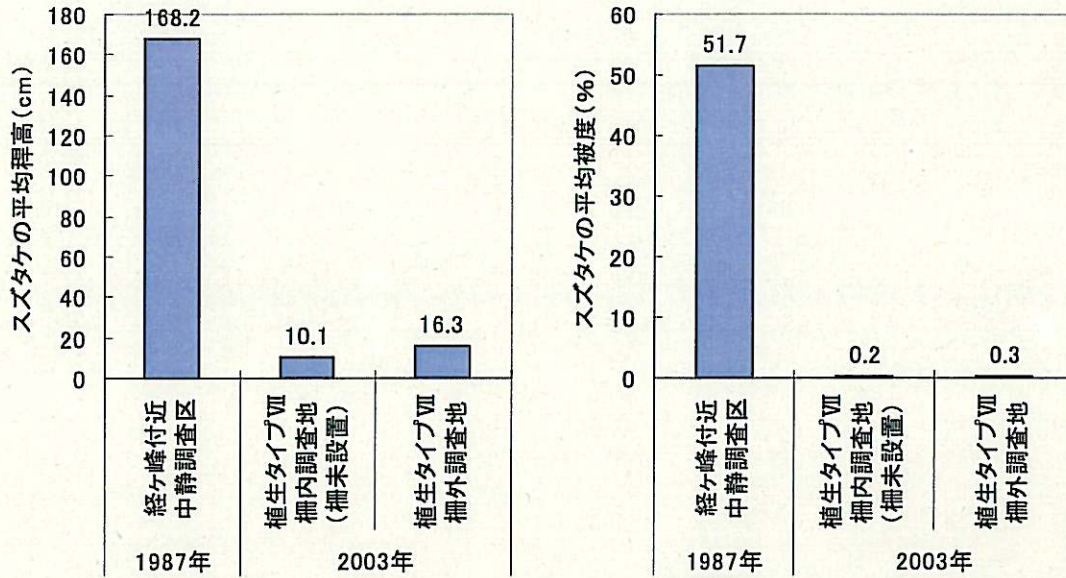


- ・ コケ探勝路（コケ型林床）の防鹿柵内では、30cm を越える実生が多数生育している。
- ・ 正木峠（ミヤコザサ林床）の防鹿柵内では、実生はほとんど生育していない。
- ・ 正木ヶ原（ミヤコザサ林床）の防鹿柵外では、実生はほとんど生育していない。

※「平成 14 年度大台ヶ原自然再生調査」結果より

参考図 5 防鹿柵内外の実生の樹高階（100 m²あたり）

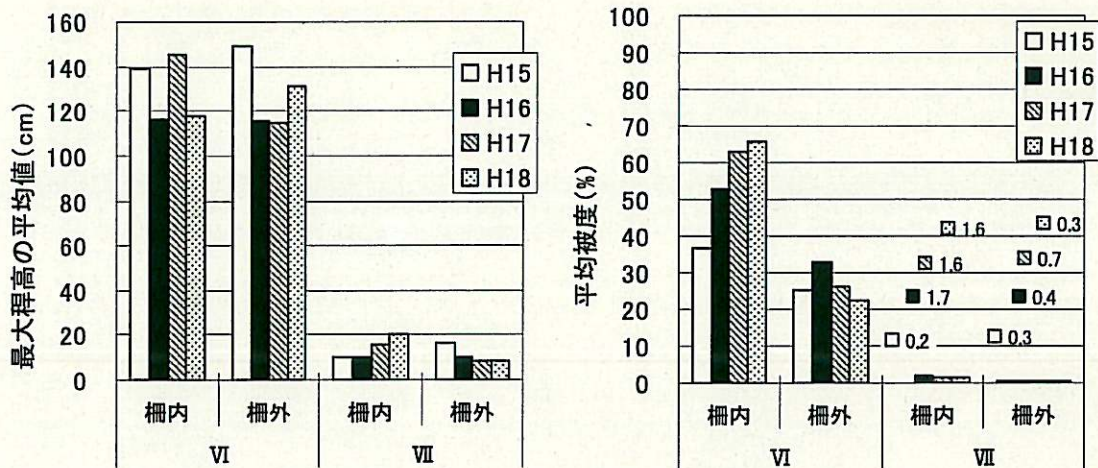
スズタケの生育状況の変化と防鹿柵の効果について



※中静氏のデータにおけるスズタケの被度（6段階）は被度（%）に換算した。対応は以下のとおり。

被度5 : 87.5%、被度4 : 62.5%、被度3 : 37.5%、被度2 : 17.5%、被度1 : 5%、被度+ : 2.5%

参考図6 経ヶ峰付近における1987年と2003年のスズタケの稈高と植被率



※VI : 植生タイプVI (ブナースズタケ密) VII : 植生タイプVII (ブナースズタケ疎)

参考図7 防鹿柵内外のスズタケの稈高と植被率の変化

多様性保護を目的とした防鹿柵の効果について

平成19年4月に設置した多様性の保護を目的とした防鹿柵（地点C、D）の効果について、以下にまとめた（参考図8）。

① 地点C（写真1）

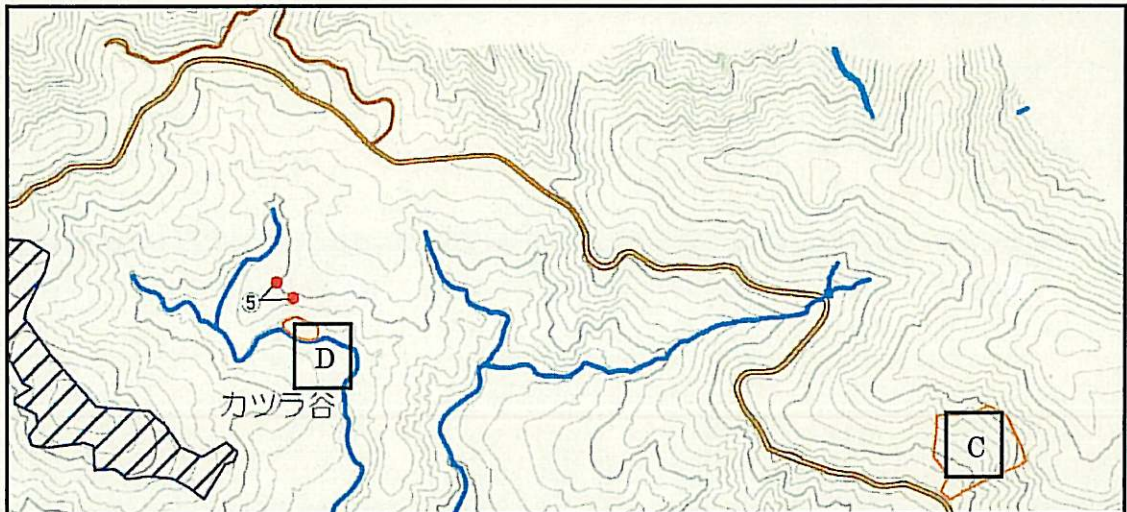
ヤマト谷の上流部の沢沿いに設置。モミジガサ類など沢沿いを主な生育環境とし、減少しつつある植物が生育している。

設置後半年が経過した時点で、モミジガサ、タカクマヒキオコシ、ワサビ等が目立つようになり、サワグルミの萌芽が確認されるようになった。また、柵の内部の下層植生の被度も柵外部に比べ、高くなっていた。

② 地点D（写真2）

カツラ谷の湧水地を含む湿地に設置した。タゴガエルの生息地であり、林相は、サワグルミ等の溪畔林になっている。

設置後半年が経過した時点で、タニソバやツルネコノメソウ等沢沿いに成立する群落形成されており、コケ群落も復活していた。また、サワグルミ等の後継樹も確認されるようになっていた。



参考図8 多様性の保護を目的とした防鹿柵の設置位置

写真1 地点C柵内の状況

防鹿柵設置：平成19年5月
柵設置後の外側からの状況
平成19年10月撮影



柵内に確認されたタカクマヒキオコシ



柵内で確認されたワサビ



柵内で確認されたサワグルミの萌芽
昨年までは確認されなかった萌芽が
確認された。



写真2 地点D 柵内の状況

<p>防鹿柵設置：平成19年5月 柵設置後の外側からの状況 平成19年9月撮影</p>	
<p>柵内の状況。 水流沿いに植生が回復している。</p>	
<p>柵内の水流沿いに確認された タニソバ群落</p>	
<p>柵内の水流沿いに確認された ツルネコノメソウ</p>	